

現代中国会話における常用ことわざ

手 塚 宗 平

前 書 き

外国語の学習では、一般的に読解力の習得は案外たやすいのだが、聞く能力、および書く能力はなかなか難しいことである。会話でかなりの時間と努力が要求される。日本語同様漢字を使用する中国語の学習では、その現象は最も著しいことである。

たしかに、漢字自体は昔の中国人が考え作った文字であるが、その後日本の学者および僧侶達が様々な艱難辛苦をのり越え遠路はるばる中国へ渡り、漢字を学んだことにより、現在漢字そのものはもはや中国人だけの財産とは言えない。日本人の漢字に対する基礎知識は、決して中国人に劣るものではない。つまり、日本人の漢字の読み書き能力は中国人と対等の力量を持ち、場合によっては中国人より進んだ現象も見られる。それは、中国にはない日本独得の「和製漢字」の使用である。

模倣上手は日本民族の特徴であり、諸外国での様々な発明をいち早く取り入れることも日本人の長所であり、しかも日本人は単に模倣のみでなく、必ず自ら工夫を加え、より便利で実用的なものへと発展させることもできる。「和製漢字」「ひらがな」「カタカナ」などは、漢字の本場中国よりも進んだ便利なものと考えられる。それは、自動車・カメラ・テレビ・コンピュータなどの技術を発明発見した諸外国の市場を、逆に後発の日本が支配することと同様な事情であり、日本人にとって漢字のみの中国語学習はけっして難しいものとは言えない。もちろん、中国語と日本語の文法とでは著しい差異があるが、それは、「漢文」の学習経験から克服可能である。もっとも、

昔の日本人は、皆よく「漢文」を学び、中国の古典文学作品をよく熟学して、自ら「漢文」を書くこともできる。だから、中国語の発音ができなくても、中国語の文章を日本語で読んだり、理解することは、想像するほど難しいことではない。

しかし、日常会話の学習については、なかなか簡単に習得することができないのが実情であり、会話文体はほとんど簡略的で断片的な短い内容表現なので、その語学を日常生活の中に常用しない限り活用不可能となりがちである。その上、日常会話の中に、一般の文章よりもよく「ことわざ」を混入することであり、それは外国人にとって最も大きな障害と考えられる。

中国語のことわざは、中国の古代文化遺産の重要な役割を果たしたものであり、現在使用していることわざのほとんどの出所は、皆古文書からである。中国のことわざは、主に庶民達の日常生活の智慧から考案したもので、その後、学者および作家により文学的仕上げをしたものが一般的なのである。また、ことわざは古代神話とも密接な関係を持ち、神話形態のことわざも少なくない。有名な「愚公移山」は、その代表的なことわざであり、ことわざに表現される物語は必ずしも真実ではなく、むしろ想像的な作り話が多い。また、中国のことわざには、よく様々な動・植物を擬人化した物語が多く、取り上げた動物により代表される人物を容易に推察可能である。例えば、狐は賢い人の代表で、虎は兇猛な人間の典型で、ろばは愚人を連想させ、蛇は陰湿な人の象徴であり、井蛙は見識の狭い人を表現している。人々は、その動物の特性をよく熟知しているので物語自体あまり詳説を必要とはしないし、動・植物の引用でことわざはより感動的でユーモアになる。その結果ことわざは、人々により愛用されることにもなる。

長い間愛用されてきたことわざは、人々の日常生活の中に溶け込み、日常会話でなくてはならない存在にもなる。そして、ことわざは、常用熟語に転換する場合もあり、物語を特に取り上げなくても人々がそれをよく熟知しているので、日常会話はスムーズに進行することができる。しかし、中国語を外国語として学ぶ人々は、それらのことわざおよび熟語の由来と意味、ある

いは潜在的役割を理解していないので、ことわざ常用熟語の自らの使用は、ほとんど不可能なことである。したがって、ことわざおよび常用熟語は、その語学を国語とした人々にとっては非常に便利なものであるが逆に外国人にとっては大きな障害といえるが、これはことわざの特徴の一つである。

例えば、ひんぱんに使用することわざである「猿も木から落ちる」のように、日本人はその潜在的な意味をよく熟知しているので、日常会話に役立つが、外国人がそれを聞いてもなかなか連想できない。まず、なぜ猿が木から落ちたのかを考え込み、次に、落ちた猿が木に戻るか、それともケガをして死んでしまったかと悩むように、外国語としての日本語を勉強するとき、ことわざはこのように難しいことである。

中国語の日常会話でよく表現されることわざを物語とともに取り上げ、また、中国語と日本語の並記により、それらのことわざの潜在的意味をよく理解し、そのことわざに対する印象を深めるとともにそれらの常用ことわざを自ら使用できるように期待したい。

(一) 魚目混珠

从前有个人叫满愿，
昔，满愿という名前の男性がいました，
买到一颗珍珠，
买到一颗珍珠，
一個の真珠を買いました，
他很小心地藏了起来。
それを大事に保管した。
他有个邻居名叫寿量，
彼の鄰人に寿量という人がおりました，
看到一颗很大的鱼眼睛，
一個の魚の目玉を見つけました，
以为是珍珠，
それを真珠と思いました，

也非常小心地藏了起来。
 非常に大事に保管しました。
 不久有个人生了病，
 間もなくある人が病気になりました，
 要用珍珠来作药，
 真珠で薬を作ろうとした，
 他们两个人都把自己藏的珍珠拿了出来。
 二人は、自分達がそれぞれ大切に保管した真珠を取り出した。
 这时候人们一比较，
 そのとき、人々はそれを比較した，
 是珍珠・是鱼目，
 真珠か魚の目玉か，
 立刻就看得很清楚了。
 すぐに区別がつけました。
 这个成语就是这样来的，
 このことわざの真意は，
 如果有人用假的冒充真的，
 もしも人が、にせ物を本物といつわるとき，
 人们就用这句成语来加以揭露。
 人々は、すぐにそのことわざを用いて注意する。

(二) 五十步笑百步

梁惠玉说，
 梁惠王が話す，
 看看邻国的政治，
 鄰国の政治をみると，
 没有象我那样关心百姓的。
 わしのように国民に対して思いやりはあるまい。

1988年12月 手塚宗平：現代中国会話における常用ことわざ

可是邻国的百姓不减少，
しかし、鄰国の人口は減らない，
我的百姓不增多，
私の人口は増えない，
这是什么道理呢？

これはなぜでしょう。

孟子回答说，

孟子が答える，

大王喜欢打仗，

王は、戦争がお好きで，

请允许我用打仗来做比方。

私に、戦争について語らせてください。

战鼓咚咚起，

戦鼓が高らかに鳴りひびく，

双方刚刚交锋，

両方の軍勢が交わるとたん，

上阵的人就丢掉铠甲拖着兵器逃跑。

兵士達が武装を捨て兵器を持って逃げる。

有的逃了一百步停下来，

ある者は、百歩まで逃げた，

有的逃了五十步停下来，

ある者は、五十歩まで逃げた，

如果逃了五十步的嘲笑逃了一百步的，

もし、五十歩しか逃げなかった者が、百歩まで逃げた者を笑うとしたら，

那怎么样呢？

それはいかがでしょう。

梁惠王说，

梁惠王が答える，

不可以，
いけません，
他们只不过没有跑到一百步罢了，
彼らは、ただ百歩まで逃げなかったにすぎない、
这同样也是逃跑啊！

これも逃げたことには変わりありません。

孟子说，

孟子が言う，

大王如果知道这个道理，

王がもしもこのことを理解するならば，

那就不要希望百姓比邻国多了。

それなら，この国の人口は鄰国より増加することはまず望めないでしょう。

（このことわざの真意は，五十歩も百歩も程度こそその差はあるが実質的には変わらない。）

（三）自相矛盾

楚国有个卖盾和矛的人，

楚国に矛と盾を売る人がいました，

夸他的盾说，

彼の盾を自慢しました，

我的盾很坚固，

私の盾はとてものがんじょうです，

任何武器也刺不破它。

どんな武器でもそれを刺し通すことはできません。

又夸他的矛说，

また彼の矛を自慢しました，

我的矛很锐利，

私の矛はとてもの鋭いです，

没有什么东西穿不透的。

刺し通せないものは何もありません。

有人质问他，

ある人が彼にたずねました，

拿你的矛去刺你的盾，

あなたの矛であなたの盾を刺してみたら，

结果会怎样？

結果はいかがですか。

那人便答不上话来了。

あの人は返答もできません。

本来嘛，

本来は，

坚不可破的盾和无坚不穿的矛是不能同时并存的。

絶対に刺し通すことのできない盾と何でも刺し通せる矛は同時に存在することはありえないことです。

(四) 掩耳盗钟

晋国贵族范氏战败逃亡的时候，

晋国の貴族である范さんが戦争に敗れて逃亡したとき、

有人趁机偷了一口钟。

ある人がこの機会をうかがって一個の鐘を盗みました。

这人想背上逃跑，

この人は鐘を背負って逃げようと思った，

但是钟很大背不动，

ただし、鐘はあまりにも大きくてとても背負えるものではない，

于是用锤子把钟砸碎，

ですからハンマーで鐘を細かく砕こうとした，

刚一砸，

打ったところで、
鐘“鍠鍠”地响声很大、
鐘はカーン、カーン、カーンと非常に大きな音を鳴り響かせた、
他恐怕別人听到声音把钟夺走、
彼は、他人にこの音が聞こえて、この鐘が他人にうばわれることを非常に
恐れた、
就急忙捂住了自己的耳朵。
あわてて自分の耳をふさいだ。
怕別人听见声音、
他人に音が聞こえることを恐れることは、
这是可以理解的、
それはよく理解できる、
但是怕自己听到、
しかし、自分が聞こえることまで恐れていたら、
这真是太糊涂了。
それはあまりにも馬鹿げたことだ。

(五) 画蛇添足

楚国有个人春季祭神、
楚国のある人が春、神に参拝した、
祭祀完毕、
祭典の終了後、
赏给众门客一杯酒、
お客達に一杯の酒を与えました、
门客们互相商量说、
お客達がみんなで相談して、
大家都来喝不够、
みんなで飲むのはとても足りない、

1988年12月 手塚宗平：現代中国会話における常用ことわざ

一个人喝绰有余，
一人で飲むと十分余るぐらい，
让我们就地画蛇比赛，
私達は、ここで蛇を描く競争をしましょう，
谁先画成谁喝。
先に描き終わった人が先に飲む。
有一人最先画好，
ある人が最初に描き終わりました，
伸手拿过酒杯正要喝，
酒杯に手を伸ばし酒を飲もうとした，
他左手把着酒杯，
彼は左手で酒杯を持ちながら，
右手继续画蛇，
右手で蛇を描き続けた，
我还能给它添上脚呢！
私は、蛇に足をかき添えることもできる。
可是没等他画出来，
しかし、彼がかき終わるまでもなく，
又有一个人蛇画成了，
またある人が蛇の絵をかき終わりました，
那人从他手里夺过杯子，
あの人は彼の手からさかづきを奪いました，
蛇本来没有脚，
蛇はもともと足はありません，
您怎么能给它添上脚呢？
あなたは、なぜ蛇に足をかき添えたの。
于是便把他那杯酒一饮而尽。
そしてあの酒を全部飲みほした。

给蛇画脚的人，
 蛇に足を描いた人，
 终于丢掉了到嘴的一杯酒。
 せっかく手に入れた酒を失うはめになった。

(六) 朝三暮四

宋国有个养猴子的人，
 宋国に猿を飼う人がいた，
 很喜欢猴子，
 猿がとても好きで，
 家里养了一大群。
 家の中でたくさんの猿を飼いました。
 他能了解猴子的意思，
 彼は猿の気持ちを理解することができる，
 猴子也很会讨主人的喜欢。
 猿も飼い主にとつてなつく。
 养猴人宁愿减少自己家中的口粮，
 猿を飼う人は家族の食糧を減らしても，
 也要让猴子吃饱。
 猿には満腹にしたい。
 不久他家里贫穷了，
 まもなく、彼の家は貧乏になった，
 打算限制猴子的食量，
 猿の食量を減らすつもり，
 又怕一群猴子不再顺从自己。
 しかし、猿が自分になつかないことも恐れている。
 于是先欺骗它们说，
 それで猿達を欺すように言った，

分给你们橡栗，

あなた達に与える橡栗は，

早晨三个晚上四个，

朝は三個夜は四個，

够吃的吧？

足りるでしょう。

众猴子听了都跳起来发脾气。

猿達がこれを聞いて跳び上がっておこった。

过了一会养猴人又说，

少したったら猿の飼主が言う，

分给你们橡栗，

あなた達に与える橡栗は，

早晨四个晚上三个，

朝は四個夜は三個，

够了吧？

足りるでしょう。

众猴子听了都高兴地趴了下来。

猿達はそれを聞いてみんなおとなしくなった。

(七) 揠苗助长

宋国有个人，

宋国にある人が，

嫌他的庄稼长得太慢，

自分の作物の生長があまりにも遅いことを嫌がって，

便一棵棵地把他们拔高，

一本一本を上へ引張る，

然后非常疲乏地回到家里，

そして、とても疲れた様子で家に帰りました，

对家里人說，
家の人に言う，
今天可把我給累坏了！
今日、私はとても疲れました。
我帮助庄稼苗长高了一大截！
私は、作物の苗がかなり高くなるように手助けをした。
他儿子跑到田里一看，
彼の子供が畑へ走って行って見ると、
苗儿都已枯死了。
苗はみんな枯れて死んでしまった。
(このことわざの真意は、物事には時期と順序がある。あまりあせるとかえってこわすことになる。)

(八) 滥竽充数

齐宣王让人吹竿，
齐宣王が人に笛を吹かせるときは、
一定要听三百人的合奏。
必ず三百人の合奏を聞く。
有位南郭先生也来请求为齐宣王吹竿，
南郭さんも齐宣王のために笛を吹きたいと申し込んだ，
齐宣王很高兴，
齐宣王は非常に喜んだ，
官家对他的待遇同那几百人一样。
役所が彼に対する待遇は他の何百人同様でした。
宣王死去湣王继位，
宣王の死後湣王が王位を継承した，
他喜欢听乐工一个个地独奏，
彼は一人ずつの独奏を聞くのが好きです，

1988年12月 手塚宗平：現代中国会話における常用ことわざ

南郭先生便逃走了。

南郭さんは逃げてしまった。

(九) 对牛弹琴

公明仪为牛弹奏古雅的清角调的琴曲，

公明儀は牛のために優雅な曲を琴でひきました，

牛无动于衷照旧低头吃草。

牛は相変わらず頭を下げた草を食べ続けました。

并不是牛没听到琴声，

それは、牛が琴の音が聞こえないのではなく，

因为这种调子它根本听不进去啊！

なぜならば、そのような音楽は牛には耳慣れない。

后来公明仪改变了弹法，

その後公明儀さんが弾き方を変えた，

模仿着蚊虻的嗡嗡叫声，

蚊や虻のようなウォーンウォーンという音をまねして，

以及小牛犊寻找母亲的悲鸣声，

または、小牛が母牛を探すときの鳴き声，

这下子牛立刻摇摆着尾巴竖起耳朵，

すると牛は尾を振り耳をそば立てて，

踏着碎步走来走去，

右往左往していた，

细心地倾听起来。

注意深く耳を傾けた。

(このことわざの真意は、相手の程度に合わせる事が大事である。または、話のわからない人を罵倒する時にもよく使用される。)

(十) 南辕北辙

魏王想要攻打邯鄲，

魏王は邯鄲を攻めようと思った，

季梁听说这件事情顾不得出使任务，

季梁はこのことを聞いて自分の仕事を放り出した，

从半路折回衣服皱折也来不及烫熨，

途中で帰り，洋服を整えるひまもなく，

满头尘土也来不及梳洗，

ほこりだらけの頭も洗うひまもなく，

急急忙忙去见国王说，

あわてて国王に進言した，

这回我从外面回来，

今度私が外から帰ったとき，

碰见一个人在太行山，

太行山で一人の人と出合った，

正向北拉着他的车驾，

北の方へ彼の馬車を走らせる，

告诉我说他要去楚国，

彼は楚国に行きたいと私に言った，

我说您去楚国为什么面向北走呢？

あなたは，楚国に行きたいのならなぜ北の方へ向かうのですかと私はきいた。

他说我的马好，

私の馬はとてもすばらしいと彼が答えた，

我说马虽然好这不是去楚国的道路啊！

馬はすばらしいかもしれない。しかし，これは楚国へ行く道ではありません。

他说我的路费多，

1988年12月 手塚宗平：現代中国会話における常用ことわざ

彼はお金をたくさんもっていると、
我说路费虽然多这不是去楚国的道路啊！
お金はたくさん持っているかもしれない、しかし、これは楚国へ行く道では
ありません。
他说我的驾车的人本领高。
私の馬車使いの腕がとてもよいと彼が言った。
他不知道错了方向後、
彼は、方向が間違ったら絶対にだめだとは理解していない、
这几桩事越好那就距离楚国越远啊。
このいくつかの条件が良いほど、楚国との距離は遠くなる一方である。
现在您动不动就想称霸成王、
今、あなたは天下を治めて霸王に就くことばかり考えている、
一来就想取得天下人的信任、
人々の信頼を得たいと考えている、
依仗着您国家大军队精锐、
あなたの国が大きく兵隊が強いと自慢して、
而攻打邯鄲、
それで邯鄲を攻める、
来扩展领地抬高声威、
領地を拡げて人望を高める、
殊不知您这样的活动越多距离统一天下为王的可能就越远了、
あなたは、このような行為を頻繁にするほど天下を治める道から遠く離れ
るということを理解していない、
正象去楚国而面向北走一样啦。
それは楚国に行くのに北の方向へ向かうことと同様なことである。

(十一) 鵝蚌相持

一个蚌正张开两壳晒太阳、

一個の蛤が両殻を開いて日光浴をしているところ、
鵲鳥飛过来啄食它的肉、
鶴が飛んで来て蛤の肉を突つつく、
蚌急忙并起两壳、
蛤はあわてて両殻を閉じる、
紧紧地箝夹住鵲鳥の嘴。
鶴の嘴をしっかりと狭む。
鵲鳥说今天不下雨明天不下雨就会有個死蚌、
今日も明日も雨が降らなければ必ず蛤は死ぬと鶴が言った、
蚌也对鵲说、
蛤が鶴に答える、
今天不放你明天不放你就会有只死鵲鳥。
今日も明日も放さなかったら必ず鶴は死ぬ。
两下里相持不下谁也不肯放、
どちらもゆずらない、
結果漁人走过来把它们一起捉去了。
結局漁師が来て一緒に両方つかまえた。

(最近よく「鵲蚌相持」を「兩岸相持」と改め、それは、台湾海峡の兩岸で、中国と台湾が対峙し続けることは、決して中国人全体のためにはならないと指摘している。)

(十二) 心不在焉

赵襄主向王子期学赶车、
赵襄主が王子期さんに馬車の扱い方を学ぶ、
学了不久便与王子期比赛、
学んだ後、王子期さんと競い合いました、
在比赛中他換了三次马、
競争中に三回も馬を換えました、

1988年12月 手塚宗平：現代中国会話における常用ことわざ

结果每次都落在后面。

結局毎回負けました。

赵襄主埋怨说，

趙襄主は怨んで話した，

你教我赶车还留了一手呢。

あなたは、私に馬車の扱い方を教えたけれど肝心な所はわざと手抜きをしたでしょう。

王子期回答说，

王子期さんが答えました，

技术已经全教给您了，

すべての技術はすでにあなたに教えました，

是您用的不对，

あなたのやり方が間違っているだけです，

赶车最要紧的是要使马套在车上能舒适妥贴，

馬の扱い方で最も大事なことは、馬を気持ちよく走らせることである，

赶车人的注意力要集中放在调理马上，

馬車を扱っている人は馬の調子に注意力を集中すべし，

然后才能赶得快跑得远，

それから速く走らせたり遠くまで走らせたりすることができる，

在这次比赛中，

今度のゲームの中で，

您落在后面的时候就光想赶上我，

あなたが遅れたときは、私を追い越すことばかり考えている，

跑在前面的时候又怕被我赶上去。

前にいるときは、私に追い越されないようにとばかり気にしている。

其实引马上路去赛跑，

最も馬車の競争事体が，

不是领先就是落后，

前に行ったり後に行ったり、
可是您无论领先还是落后，
しかしあなたが前にいようと後にいようと相変わらず、
注意力都集中在我身上，
注意力を私の方にばかり集中している、
哪里还顾得上调理马？
とても馬の調子を見るような余裕はあるわけないでしょう。
这就是您落后的原因啊！
それはあなたが遅れた原因ですよ。

(十三) 利令智昏

齐国有个人一心想弄到金子，
齐国のある人が金を手に入れることばかり考えている、
清早起来穿戴整齐，
朝早く起きて衣服を整え、
一直走到卖金子的处所，
金を売る所まで歩いて行きました、
看见有人拿着金子伸手就夺。
金を持っている人を見つけると、すぐに手を出して金を奪いました。
官吏把他逮住捆绑起来，
役人が彼に縄をかけて捕えた、
这么多人都在这儿，
ここにこんなにたくさんの人がいるのに、
你为什么公然抢人家的金子？
あなたは、どうして白昼堂々と他人の金を奪ったの。
他回答官吏说，
彼は役人に答えました、
我根本就没看到人只看见金子了。

1988年12月 手塚宗平：現代中国会話における常用ことわざ

私は人が全々目に入らない。ただ金だけに目が奪われた。

(十四) 两虎相斗

有两只老虎为争夺一具人尸而展开了恶斗，
2匹の虎が一死体を奪おうとしれつな争いをした，
管庄子看见了就要去刺杀它们。
管庄子がこれを見てすぐに虎を殺しに行こうと思った。
管与劝阻他说，
管与は彼にやめるように言った，
老虎是贪吃的猛兽，
虎は食いしんぼうの猛獣で，
人是美味的食物，
人間はおいしそうなえさで，
现在两只老虎正在为争夺人尸而斗，
今，2匹の虎は死体を奪うために争っている，
最后小的一定被咬死大的一定被咬伤，
最後に小さな方が咬み殺され，大きな方でも傷を受ける，
您等到大的受了伤的时候再去刺它，
あなたは，大きな虎がケガをした後，それを刺し殺せばいい，
那么您一下子就可以得到两只老虎了，
それならあなたは一度に2匹の虎を得ることができる，
不用费刺杀一只老虎的气力，
1匹の虎を殺すほどの苦勞をしなくても，
却可以得到刺杀两只老虎的名声。
2匹の虎を殺した名誉を得ることができる。

(十五) 卜妻为袴

郑县有个叫卜子的人，

鄭県にト子という人がいた、

叫他的妻子给他缝条裤子。

彼のおくさんに自分のズボンをつくらせた。

他的妻子问道缝条什么样的裤子？

どのようなズボンをつくればいいのと彼の奥さんが聞きました。

丈夫说象我那条旧裤子那样。

私の前のズボン同様につくればよいと夫が答えました。

妻子于是把新裤子弄得东一个窟窿西一个补丁，

妻が新しいズボンを穴だらけにつくりました、

跟那条旧裤子一模一样。

前のズボンそっくりでした。

あと書き

中国語のことわざの由来とその真意をよく理解していれば、自らその使用が可能である。従って、日常会話では、「長話短説」——長い話を短くすることも可能である。あるいは、「聞一知十」——一を聞いて十を知るように、会話は簡単で便利になる。

中国語のことわざの勉強は、必ず中国語の日常会話に役立つと考えられる。

参考資料

成语故事选 李培元・吴叔平編 香坂順一改編 光生館 1983初版

中国成语大辞典 鍾香琳編 莊家出版社 1976初版

中国民間故事集 光華書店編

中国古代寓言選 人民文学出版社編 1981版

古代寓言选注 内蒙古人民出版社編 1978版

(備注) 本文の内容の一部は、元本学教授森脇 憲先生の指導を受けたものである。